

# 熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町  
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス  
NPO法人はとやま環境フォーラム気付  
メール kawasemi3001@gmail.com☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

## 2月の活動予定

### ■鳩山町まちづくり出前講座を開講

役場に、自然・文化財産を生かした鳩山町の観光集客・移住促進政策を説明していただき、意見交換をします。

鳩山町まちづくり出前講座

**『豊かな里山』ならではの鳩山町の観光集客・移住促進政策について 話合おう!**

講師/政策財政課、産業振興課、教育委員会文化財担当

**2月18日(火)**

午前10時~12時 会場 かわせみハウス 参加費 無料



どなたでも参加できます。ぜひお越しください。

主催：はとやま環境フォーラム

観光集客政策の現状などを説明していただき、そのあと、自然財産・文化財産を活かしたまちづくりについて意見交換をするのが目的です。皆様の参加をお待ちしています。

### ■彩の国埼玉環境大賞（優秀賞）表彰式

はとやま環境フォーラムは、埼玉県等が主催する令和6年度彩の国埼玉環境大賞の県民部門優秀賞を受賞しました。この賞はSDGsなど環境・社会・経済の統合や環境保全の取り組みにおいて、他の規範となる優れた個人、各種団体及び事業者を表彰するもので、2月7日(金)の表彰式には当団体から2人が出席します。受賞者の活動紹介はテレビ埼玉で放映され、取り組み内容は埼玉県HPでも紹介されますので、是非、ご覧ください。この受賞をさらなる取り組みの発展につなげていきたいものです。

### ■今年共同菜園活動がスタート

熊井の森のトラスト地の雑木林の手入れと共に臨縁部(畑など)の休耕地を活用することで、「里山」全体の再生をめざす活動を続けています。その今年初めての活動として、2月1日より、共同菜園での野菜づくり・ハト麦栽培および協生農法試験地での堆肥撒きや畝づくりが始まりました。共同菜園は会員であればどなたでも自分の「畑」(畝)が使えますので、ご希望の方はご一報ください。ハト麦栽培と一緒にやってみようという方も大歓迎です。

### ■今春から熊井の森で生きもの調査を開始

2月から、熊井の森のトラスト地を含む森と水辺で、赤外線カメラでのアナグマ観察と、アカガエル、ホトケドジョウ、トウキョウサンショウウオなどの生きもの調査を開始します。調査協力など、興味のある方は問合せ下さい。

## 2月・3月 活動スケジュール

2月	2日(日)	午前8時~	資源回収
	7日(金)	午前10時~	環境大賞表彰式
	16日(日)	午前9時半~	理事会
		午後1時半~	定例観察会
	18日(火)	午前10時~	出前講座
	25日(火)		熊井の森通信39号発行
3月	2日(日)	午前8時~	資源回収
	16日(日)	午前9時半~	理事会
		午後1時半~	定例観察会
	25日(火)		熊井の森通信40号発行

2月18日(火)午前10時より、かわせみハウスで「鳩山町まちづくり出前講座」が開催されます。

当団体は、鳩山町は都心から50キロ圏内にある「里山」の魅力たっぷりの町である。水質汚染や大気汚染対策が充実している鳩山町ならではの「自然財産」(きれいな空気、ため池、景観、生物多様性に富んだ生きものの生息)と国指定文化財の南比企窯跡群などの「文化財産」は、鳩山町への移住を促す貴重な魅力であり、観光集客の目玉にもなりうるのではないかと考えます。今回の講座では、町の事業関連担当課(政策財政課、産業振興課、教育委員会文化財担当)から、自然・文化財産を生かした町の移住政策・

# 1月の活動報告

## ■自然共生サイト申請に向けてモミの木調査



12月30日(月)と1月2日(木)の2日間、熊井の森の環境フォーラムトラスト地でのモミの木を中心とした植生調査を実施。トラスト3号地は、4年前の基礎的な調査では、モミの木が15本、コナラ102本、ヒノキ82本、サクラ19本が確認されています。その後、倒木となったものもありますが、基本的にその調査記録を使うことにしました。トラスト1・2号地ではモミの木は確認できず、4号地では7本、5・6・7号地では太いものはなく、実生のモミの木はたくさん見かけられました。希少種ではシュンランのほかサイハイランも確認。いずれにせよ、トラスト地に隣接するエリアには相当数のモミの木が群生しており、自然共生サイト申請時には周辺部の調査結果も添えて申請するつもりです。

## 調査する市民 16年間、ゴルフ場散布農薬のモニタリング調査を独自実施

NPO法人はとやま環境フォーラム代表 愛場謙嗣

1986年、私たちが住む埼玉県鳩山町の大規模団地のわずかに500メートル先にゴルフ場造成計画が浮上しました。1990年8月にはゴルフ場事業者と地元自治会とが、無農薬管理、開業後の事後アセスメント(化学モニタリング、動植物の生態調査)の実施など、予防原則を取り入れた環境保全協定を締結しました。しかし、その後、自治会の変貌(不当な手続きによる協定解消)もあり、2003年から協定に基づく環境モニタリングは実施されないまま現在に至っています。私たちは微量流出の実態把握を中断させないために、08年1月、NPO法人はとやま環境フォーラムを発足させました。年1回、ゴルフ場調整地下の排水路1カ所で定点採水調査を実施。分析項目は当該年度使用農薬のうち、発がん性など毒性の疑いの濃い農薬成分と使用量と散布時期を勘案した3農薬成分です。

町内5つのゴルフ場で散布された農薬の年間総量は、99年度から23年間で年間4トンから5トンの間を推移しています。農薬の種類(商品名)は148種類で、そのうち強い害の疑いのある農薬は58種類です。毎年いずれかのゴルフ場で敷地外への微量流出が続いていることもわかりました。鳩山町はゴルフ場農薬水質調査を実施していますが、その継続を求める住民の関心の高さを示す1つの事例として、これからも住民の手による独自調査は続けていきたいと思っています。



市県による採水調査(2009年7月)

## ■軽トラ2台分の豚フンを共同菜園に搬入

1月17日(金)、町内の養豚場に豚フン肥料軽トラ2台分を注文し、ちよっくま(上熊井農産物直売所)の上の畑(共同菜園)まで運んで来てもらいました。道路わきのコンクリート壁が高すぎてダンプ荷台からは下ろせなかったため、回り道して、畑の上の方の道路に下ろしてもらい、1月20日(月)に、野焼きをする前に道路から畑にシャベルで移しました。

## ■共同菜園で初めての野焼き体験



1月20日(月)午前9時半、ちよっくま上の共同菜園に集合、刈り取ってあった枯草の野焼き開始です。初めての体験だったので、地元の方の指導の下で、火をつける順番、枯草の積み上げる量、万が一のときの消火対応などに留意して、いよいよ点火。あっという間に燃え広がり、山火事の怖さはこれか、と納得。昔は野焼きの灰は貴重な肥料として利用されていたわけですが、今は、ホームセンターで手軽に肥料が買える時代、野焼きのメリットとデメリットを考えさせられました。当日の夜は雨でひと安心。来年は要検討です。

## ■トラスト3号地の階段づくり



1月20日(月)午前11時、野焼き作業の後、ピザ窯上のトラスト3号地斜面で作業トレイルづくり。モミの巨木脇から頂上へジグザグに登り、頂上から左側の町道にすぐ下りていくルートです。事前調査でわかったアナグマの巣穴エリアや希少種ラン、実生モミの幼木を避けてルートを設定。実生のモミ幼木の何本かは植え直しました。事後モニタを行い、様子を見て必要があれば改修も。

▲日本消費者連盟発行『消費者レポート』2025年1月20日号に掲載

## 初夢 熊井の森裾野にツリーハウスを作りたい！



熊井の森の裾野の「ちよっくま」の上の斜面に、8畳1間程度の小さな小屋（ツリーハウス）を作りたい。蓄電池で電源確保、飲料水はポリタンク、トイレ併設（検討）、簡易ベッドも設置。使い道は共同菜園現地事務所&菜園利用者休憩所、熊井の森ガイドインフォメーション、農産物・グッズの販売、関係者の簡易宿泊機能、小屋横の木陰にベンチとテーブルを設置してコーヒーでひと休み。建築資材は協力者頼み、その他備品関係は新規購入。そのための費用をクラウドファンディングで募り、一緒につくる仲間が集まれば、今秋には着工したい。(K・A)

体験イベントも可能です。(T・S)  
新年会参加者の声「昨年、お試して熊井の谷津田米を5kg譲っていただいたけど、美味しかった。きれいな水で育てた特別米だから、実現したら今年も買います」



▲新年意見交換大ほら大会参加者

## 初夢 協生農法で鳩山の休耕地（畑）が大復活！



不耕起・無農薬・無肥料の協生農法ならお金がかからず、健康被害のない作物ができ、肉体的負担も少ないので高齢者でも取り組めるというので、昨年5月から

始めましたが、昨年は何もかもが初めてなので失敗続き。夏野菜を40種類くらい種を播いたのですが、雑草に負けて、食べられたのはトウモロコシとオクラだけ。しかも、やっとできたトウモロコシは猪君のご馳走に。2年目になる今年は種まきをタイムリーに行き、草刈りをしっかりやろうと決意しています。協生農法で実績を積んで、鳩山町の休耕地の有効活用に貢献できるようになるのが夢です。(K・I)

## 初夢 ハト麦が鳩山の特産品に育ってほしい！



今年、下熊井の休耕地から「ちよっくま」上の畑に移動し、今年で4年めになるハト麦栽培。健康にいいハト麦茶が無農薬で育てられたらいいな、と自分が飲むために軽い気持ちで始めたのですが、その後、仲間が増え、今では、環境フォーラムの活動協力者への返礼品とか、ネット販売用の商品になるかもと期待が膨らんでいます。今年は作付面積を増やし、グループ作業化と一部機械化を進め、ハト麦づくりの楽しさを知ってもらい収穫イベントもやりたい。鳩山産ハト麦が鳩山町の特産品にまで育ってくれたら嬉しいですね。(T・S)

## 初夢 熊井の谷津田米の共同購入で地域おこし！



熊井の谷津田米は、石場沼の湧水用水を利用して生活排水は一切混じっていない。ミネラルが豊富で天日干し、という付加価値の高いお米です。その特徴を生かし、「熊井の森の谷津田米」としてブランド化し、里山保全への支援の意味も込めて、環境フォーラムの会員に希望者を募り、共同購入という形でまとまった量を確保し、生産者にお米を分けてもらうのはどうか。消費者には、SDGsに貢献し、付加価値の高いお米を妥当な金額で買え、生産者には、事前予約で販売収益を確保できるという双方にメリットがあると思う。共同購入予約者向けに田植え、稲刈りなどの

## ニ-ハオ 熊井の森歳時記

### 三つ葉を見つけて一足早く春の気配を



▲香菜(パクチー)とよく似た三つ葉

先日、熊井の森の奥でやや湿っぽい道沿いで野生の三つ葉を発見！ 数メートルに渡ってポツポツと地面から顔を出していました。まだ冬の最中ですが、淡い緑のななよよした姿はほかの山菜より一足早く春の気配を知らせてくれました。三つ葉はもともと山菜の一種で、野菜として栽培されるようになったのは江戸時代だったそうです。今はスーパーでよく販売されていて、シャキシャキとした食感で茶碗蒸しやお吸い物などに結構重宝されています。しかも、一回刈った後にまた新芽が出てくるのも一つの楽しみです。今どき野菜価格高騰の中、いろいろと工夫しないと。

中国には三つ葉はないですが、それと同じセリ科で見た目もよく似ていて、濃厚な香りを持つ「香菜」(パクチー)があり、私の好物です。蘭州牛肉ラーメンや故郷に近い鄭州の羊ラーメンのトッピングには絶対欠かせない薬味です。水餃子のタレにもとても合うんです。肉の臭みを抑えて絶妙なバランスの食感をもたらしてくれて、香菜という名前がぴったりだなとつくづくと思います。その地の野菜の魅力を生かした違う食文化は実に興味深いです。野生の三つ葉も今度、味わってみようと思います。(王 菲)

### 【活動後記】

■はとやま環境フォーラムの活動のひとつである「第8期 熊井の森写真学校」(講師・三森典彰氏)のフィールドでの撮影活動が、“泉井交流体験エリア”のご協力を得て、1月26日、無事終了しました。今年度は昨年4月から5回にわたり実施し、ネイチャーフォト撮影の魅力を通して、



▲写真学校参加者の講座最終回記念撮影

身近な植物や昆虫たちへの関心の増加、そして自然環境保護への意識を深める一助になったのではないかと思います。本格的なカメラだけでなく、スマホでの撮影の仕方等もレクチャーしています。唯一の参加条件は、自然が好きなことだけです。各講座ごとの単発の参加でも歓迎です。来年度はさらに多くの方々の参加をお待ちしています。なお、3月一杯、泉井交流体験エリアのロビーにて写真学校の皆さんが撮影した写真40点以上を展示していますので、ぜひご覧にお出かけください。

## 森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ⑪

### タヌキのためフン場は「社交場」



▲道のど真ん中にウンチが山積み

1月の観察会では道のど真ん中でうんちが山積みになっている場面に出会うことが出来ましたが、これは「ためフン場」と言われるもので、同じ場所を繰り返しトイレとして使うことで出来ます。

ためフンをする代表的な生き物はタヌキやアナグマ、ハクビシンなどで、特にタヌキのためフン場は規模も大きくなりがちです。夏場は糞虫をはじめとしたフンを食べる生き物たちや微生物の働きが活発なため、早々と分解されてしまうのですが、冬は寒さで活動が鈍り、フンが残りやすいのでためフン場も目につきやすくなります。

生き物のうんちを見ると、骨や昆虫のかけらや植物の種、羽毛などが残っていることがあり、その個体が何を食べていたのかを知る大きな手掛かりとなります。

また、タヌキのためフン場は地域のタヌキの社交場とも言われており、複数家族で同じためフン場を使うこともあり、餌状況や健康状態などの情報交換を行っているのではないかと考えられています。今回見つけたためフン場は規模感的にはタヌキのためフン場の可能性が非常に高いのですが、今後どんな生き物がためフン場に来るのか自動撮影装置などで確認してみたいと思います。

(愛場 結偉)

### 定例観察会のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日  
集合場所 : かわせみハウス前  
集合時間 : 午後1時半  
(終わりは午後3時過ぎ)  
参加料 : なし



熊井の森のより良い在り方を探るため、月に一度、熊井の森に入り、森や周辺の変化を楽しみながら、その時々に出会えた生き物を観察記録する定例観察会を行っています。

ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。

鳩山ニュータウンかわせみハウス前に午後1時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒できます。